

次号予告

特集 筋萎縮性疾患

筋萎縮性疾患とリハビリテーション..... 東大・リハ部 上 田 敏
 先天性筋ジストロフィーの運動療法..... 東大・リハ部 菊 地 延 子
 施設における筋ジストロフィー症の運動療法... 東埼玉療養所 鈴木 貞 雄
 Duchenne 型筋ジストロフィー症児に於ける

在宅指導の方法..... 都心障センター 工 藤 俊 輔
 筋萎縮性側索硬化症..... 東大・リハ部 清 水 一
 <随想>筋ジストロフィー児の教育に

携わって..... 宮城県西多賀養護学校 佐 藤 学
 筋ジストロフィー児と就労..... 聖恵授産所 井 原 牧 生
 と び ら 時にはこんなあたりまえのことが..... 都立北療育園 大 西 麓 子
 講 座 教育学シリーズIV 教育方法(3)..... 玉川大学 沼 野 一 男
 失語症 2. 失語症の評価 都老人総合研究所 伊 藤 元 信
 プロGRESS 先天異常, 変形及び切断と義手..... 新潟大学整外 田 島 達 也
 職業リハビリテーション(6)..... 身体障害者雇用促進協会 松 井 亮 輔

Recommended Readings (理学療法部門) 整形外科..... 大阪大学 小 林 紘 二
 (作業療法部門) 精神医学と OT... 府中リハ専門学校 鈴木 明 子

編集後記

「自分だけは大丈夫安全である」と日頃思っているものに天災に加えて精神障害もあるのではなからうか。多数決の社会では弱くて自己主張のできそうにない人々は、時には恩恵に浴さない時代を過す。今日の精神障害者は自分の心の殻、家族、学校、職場、一般社会と常に重くのしかかる問題に対処していかなければならない。

助ける側にある精神医療従事者は交錯する価値観と個人の力の限界から、ともすれば何かに原因や責任をかぶせることで息抜きをしたくなってしまう。今働いている人が精神医療を支え明日への発展を願いつつ額に汗しているので、ありのままにその姿を文字で表わしてもらった。これが本号の主眼点である。

精神病院の必要性から多角的な機能をもつことや、外来やディケアセンターの活躍状況などを理念と現状を合わせながら執筆

していただいた。この雑誌を購入される読者に職域や職種に拘らずよく読んでいただき、ご自身の精神衛生のより健全なあり方と余力を精神障害者へのご理解に回していただけると編者としては大層のよろこびである。

沼野氏の「教育方法」もますます興味をもって読めて役立つ内容である。永江氏の「失語症とは」は日頃接していても詳しい原因論には触れずに通り越しがちな失語症の患者さんへももっと的確な判断で治療に当れるようになると思われる。

執筆者の方には読上をお借りして厚くお礼を述べさせていただきたい。

とびらの「安全の殻」から始ったこの号が読者の日常生活の中で自然に活用されることを祈るものである。

(鈴木明子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順, 以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
わらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ専門学校

寺 山 久美子
都心障センター

奈 良 勲
有馬温泉病院

福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸

金 子 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章

佐 藤 馨

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

中 屋 久 長

藤 沢 しげ子

松 本 妙 子

丸 谷 隆 明

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

和 才 嘉 昭

(担当 細田・西塚)